

ご 挨拶

日々、空手の研鑽に努めておられる皆様、空手ファンの皆様、北の武人会ホームページへご訪問いただきありがとうございます。私は、本年3月に発足した「北の武人会」の会長を仰せつかりました極真会館高木道場師範の真壁です。

男は男らしく。女は女らしく。親は親らしく。子供は子供らしく。そして、人間は人間らしく。そのように毎日を送ることができたら、これほど豊かな人生はありません。こと、空手も同じ。空手を志す者は空手家らしくありたいものです。



北海道においても実戦空手は大いに普及し、極真に限らず日々強い選手が誕生しています。北海道における実戦空手は、昭和45年3月、極真会館大山倍達館長の命を受け北海道支部長として渡道した、故高木薫師範の存在無くして現在の隆盛を語ることはできませんが、大山館長は空手は人の道であることを説かれ、高木師範は、人として本物であれと私達に薫陶を与えておりました。

空手は武道。空手を志す者は、空手が武術であるがゆえに技と体を鍛えることは勿論ですが、それにも増して心を練り、心技体のバランスを得た自分を探求する態度を忘れてはならないのです。この心がけ一つで、礼節や克己、友愛といった武道本来の価値が毎日の稽古を通じて日々の生活にも同居するようになり、人それぞれに練られた「気」や「香り」が滲み出てくるのではないのでしょうか。ですから、空手は終わりのない心身の生涯修行、即ち「武道」と言われるのです。

北の武人会は、「北の武人会綱領前文」に表したように、武道たる空手を実践し範を示すことのできるよう研鑽して参る所存であります。具体的には

武術として強い空手を極める

心身を錬磨し胆力を据える

生涯修行を実践し人格を陶冶する

ことに努め強い個を確立すると同時に、男女の別無きことは勿論、高齢の方や身体的なハンディーのある方でも、武道としての空手を実感しながら続けて行ける稽古のあり方や方法を共に考え提言していくことを通じて、社会にも貢献して参りたいと考えております。

北海道では桜の花の見頃を迎えております。只ひたすらに咲いて散る桜の花に、花の美しさのみならず命の厳かさを教えられ、毎年花を咲かせ続ける樹木の姿に、本義を全うすることの大切さと、それを後生に伝えて行くことの重さを知らされます。北の武人会は、100年も200年も美しい花を咲かせ続ける立派な樹幹になろうと願う者が集う、尚武の相互協力・支援組織です。

皆様の、ご理解とご協力をこころからお願い申し上げます。

平成21年5月

北の武人会 会長 真壁 周志